［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2672800147
法人名	特定非営利活動法人　水度坂友愛ホーム
事業所名	グループホーム友愛
所在地	京都府城陽市寺田市辺中垣内4 （電　話）0774-57-0320

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】（平成　21　年　1　月　13　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15　年　12　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　7人，非常勤　2　人，常勤換算　7.7　人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	55,000　円		その他の経費（月額）	30,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　250.000　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1.350　円			

（4）利用者の概要（　12　月　12　日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0	名	要介護2	1	名
要介護3	1	名	要介護4	4	名
要介護5	3	名	要支援2	0	名
年齢　平均	88 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	国立病院機構南京都病院　ほうゆう病院　堀内医院　田坂歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

城陽市の田園が広がる地域にあり、外観も周りの住宅環境に溶け込んでいます。ボランティア精神を根底に開設されたホームであり、厚い職員配置と、地域のボランティアを多く活用して個別ケアに力を入れられています。家族と一緒に利用者を支えていくということを基本にされており、離れて暮らしても家族との繋がりを大切にされています。利用者は行事以外にも、毎朝の体操やレクリェーションに参加して楽しみの多い毎日を過ごされています。また、ホームでは安心の医療体制の下で、意思統一を図り積極的にターミナルケアに取り組まれています。法人としては定期的に予防教室を開催し、地域の方にも参加いただいています。地域からの信頼も厚く、介護相談の窓口としての役割も果たされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の話し合った検討すべき事柄は、ホームでは必要であると判断したことや、できることから改善に取り組まれています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、職員の意見を集約して管理者がまとめて作成されました。自ら把握した改善点を計画に起し、取り組もうとしている最中で、更に個別介助が大切であると認識する機会になっています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	家族、自治会長、民生委員、行政担当者、社会福祉協議会役員、地域包括支援センター職員、管理者、主任をメンバーとして2ヶ月に1度開催しています。ホームの運営状況や利用者の様子等の報告をし、参加者とは意見交換の場になっています。地域の情報を知る良い機会になり、大変有意義な会議となっています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族会を3ヶ月に1度開催し、家族同士 が話し合う場を設けると共に、ホームに意見や要望をいただいています。得られた意見にはすぐに対応し、ケアに活かしています。職員間ではヒヤリハットや申し送りノートで共有しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に参加しています。地域の行事のお誘いもいただき、敬老会や運動会、夏祭り等に参加しています。近所の方が回覧板を持ってきてくれたり、野菜のおすそ分けをいただいたりと良好な関係が築かれています。また、ホームでの行事にも参加を呼びかけ、地蔵盆や餅つきに参加いただいています。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本的な運営理念に基づき「暖かい心　優しい手　そして笑顔」をキャッチフレーズとして、日常のケアに取り組んでいる。ホームの開設時より、住み慣れた地域で支えあいながら暮し続けていくことを大切に考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議で話し合い、振り返る機会を定期的に持ちながら、理念の実践に向けて取り組んでいる。キャッチフレーズは玄関や階段、リビングに額に入れる等、工夫をこらして掲示されていている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加している。地域の行事のお誘いもいただき、敬老会や運動会、夏祭り等に参加している。近所の方が回覧板を持ってきてくれたり、野菜のおすそ分けをいただいたりと良好な関係が築かれている。また、ホームでの行事にも参加を呼びかけ、地蔵盆や餅つきに参加いただいている。尚、スタッフ、利用者とも近隣の方が多い。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員の意見を集約して管理者がまとめて作成した。自ら把握した改善点を計画に起し、取り組もうとしている最中で、更に個別介助が大切であると認識する機会になっている。前回の話し合った検討すべき事柄はできることから改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、民生委員、行政担当者、社会福祉協議会役員、地域包括支援センター職員、管理者、主任をメンバーとして2ヶ月に1度開催している。ホームの運営状況や利用者の様子等の報告をし、参加者とは意見交換の場になっている。地域の情報を知る良い機会になり、大変有意義な会議となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者からの問い合わせには丁寧に対応している。意見交換をする機会が多く、様々な情報ももらうことができ密な交流がある。市からの介護相談員も受け入れ、月に1度訪問してもらっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多く、直接暮らしぶりを伝えている。電話連絡も頻繁にしている。年に3回「友愛だより」を発行し、法人の各事業所の報告や取り組みを写真入りで載せたものを配布している。金銭については預かり金対応で、収支報告をして必ず確認をいただいている。預かり金の取り扱いについて文書で同意をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3ヶ月に1度開催し、家族同士が話し合う場を設けると共に、ホームに意見や要望をいただいている。得られた意見にはすぐに対応し、ケアに活かしている。職員間ではヒヤリハットや申し送りノートで共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時にはオリエンテーションを行い、まずは先輩職員について、利用者を理解しながら日勤や夜勤等の業務につくことを徹底している。地域から採用している職員が多く、それぞれの生活状況に合わせたシフトを組んでいる。人員配置を厚くすることで短時間の勤務でも良い等、働きやすい環境を整えている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての研修等、外部の研修には順次参加できる体制を作っている。研修受講後は報告書を提出して、会議等で伝達研修を行い、職員間で共有を図っている。ホーム内でも計画を立て、毎月担当職員が講師になって勉強会を開催している。職員の資格習得にもサポート体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、興味のある研修は受講している。懇意にしている他事業所とは交換研修を行い、職員で話し合いその場で得られた知識をケアに活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、見学に来ていただき併設のデイサービス利用から始めて、顔なじみになり雰囲気に慣れてから入居という過程を踏んでいる。入居前には必ず自宅に訪問し、生活状況を把握した上で契約に至っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族と職員が一緒になって利用者を支えていくということを基本にしている。家事等を一緒に行ないながら教えて頂く場面を作っている。利用者の話を傾聴し、共に悩んだり喜んだりできるようにボランティアも活用している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に聞いたり、日々の会話や表情から気持ちを汲み取っている。職員の様々な角度からの観察や、介護相談員からの情報も活用し、一人ひとりの思いの把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員間で話し合った内容を基に、本人や家族の意見、要望を反映した介護計画を作成している。アセスメント様式としてセンター方式を使用し始めたところである。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、モニタリングを行い再アセスメントをして介護計画を見直している。状態の変化がある場合はすぐに対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助やおこづかいを使っての買い物等、希望があれば柔軟に個別での外出の支援をしている。利用者が家族と出かける際にも職員が付き添う事もある。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、以前のかかりつけ医に継続して診てもらっている方やホームの提携医の方とそれぞれの主治医を決めている。月に2回提携医の往診があり、24時間連絡可能で、緊急時の対応も整えている。日中は看護師からの協力もあり、医療面では安心の体制が整っている。歯科医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに前向きに取り組まれている。家族とは定期的に話し合いの場を持ち意思の統一を図っている。医師から協力もあり、最後の時まで、その人らしく生活していただくことを大切に考えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけには不快感を与えないように気を付けている。不適切な場面が見られた場合は職員同士で注意し合っている。入浴や排泄のケアは、希望者には同姓介助の配慮もしている。個人情報等の記録物は、ホーム内の書庫に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はあるが、一人ひとりの希望に合った生活を支援している。例えば起床時間や就寝時間は自由で、利用者のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や味付けや下膳、後片付け等、できることを利用者と一緒に行っている。職員も利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を食べている。家庭菜園で収穫した新鮮な野菜や近所からのおすそ分け等、豊富な食材を使い家庭的で美味しい食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、身体機能の低下した方は、一階のデイサービスが使用していない時間帯を使って二人介助で入浴し、歩行の安定している方は夜間の入浴を支援している。拒否のある方には、声かけを工夫し気持ちよく入浴していただいている。体調不良の方には、清拭で対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や針仕事、音楽等一人ひとりの得意なことや好きなこと、できることをしていただき、楽しみながら毎日を過ごしていただいている。毎日体操に参加して身体を動かす事を日課にしている。個別での対応の強化にボランティアを多く活用している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩での外出、コーヒーを飲みに出かけたり、外食にも出かけている。車で遠出する事もある。テラスで日光浴をしたり家庭菜園へ行ったりと日常的に外に出る機会を作っている。今後は、個別での外出計画を立て、希望に応じた場所へ出かけたいと考えている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ウィークデイの日中は鍵はかけていない。外出傾向の方には、外へ行きたいと言われた時は職員付き添いの元で出かけてもらっている。ホームから階段を下りて、一階玄関前テラスまで自由に行き来されている方もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署との協力で事業所全体で避難訓練を行っている。ホーム独自でも夜間等様々な場面を想定して避難訓練をしている。地域からの協力も得られている。	○	運営推進会議等でも話しをし、地域からの協力も得られていますが、ホームの状況を理解して頂いただく為にも、避難訓練に地域の方の参加を呼びかけられてがどうでしょうか。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が栄養バランスを考慮し1200～1300キロカロリーに抑えた献立を立てている。食事量や水分量は毎回チェックし、記録に残している。状態に合わせて、量を調節したり、キザミ食やおかゆで対応している。野菜の種類を多く使用し、なるべくお箸で食べていただいている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節にあった飾りや写真が掛けてあり、食卓やソファー、テレビコーナー等、お気に入りの場所で過ごすことができる。一階のテラスからは庭が眺められ季節を感じる事ができる。敷地内には地蔵が祀ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家庭で使っていた家具やお気に入りの装飾品、大切な方の写真、携帯電話やラジオ、キーボード等趣味の物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室作りをしている。		